

国語科 学習指導案

横浜国立大学教育学部附属横浜中学校 福里 宝

1 対象・日時 1年C組 令和6年11月23日(土) 1校時

2 本単元で育成したい資質・能力（評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 事象や行為、心情を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	① 「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈している。	① 進んで本文の場面や描写を捉えて本文の内容を解釈しようとしている。

3 単元「小説に秘められたドラマを読みとろう～描写や場面のつながりに着目して『星の花が降るころに』を解釈する～」について

本単元は安東みきえによる小説「星の花が降るころに」（光村図書『国語1』掲載）（以下、本教材）を教材とし、特定の場面を演じる活動を通して、生徒たち自身が登場人物の心情や場面と場面のつながりを考えながら内容を解釈できるようにすることをねらいとした単元である。具体的には「演じる」という活動を通して、本文全体に登場する場面同士の結び付きや、複数の描写同士を関連させながら内容を解釈することで、作品の新たな一面を発見したり、作品全体を通じた登場人物の心情の変化に着目したりする力を育てていきたい。その際、場面や描写の結び付け方によって登場人物の心情や行動の捉え方が変わることにも気付かせたい。

本教材は、生徒と同じ中学一年生の主人公が人間関係の変化の中で成長していく姿を描いた小説である。生徒自身が感情移入できるような口語での語りとセリフ、比喩を用いながら細かに表現される心情描写などが特徴として挙げられる。また、物語全体の捉え方や結末部分の捉え方については幅広い解釈が可能である。こうしたことから、生徒が一つ一つの表現や構成などに注目することで自分なりの解釈を見出す力の育成に適したものだと言える。

このような教材の可能性を活かし、生徒たちの内容を解釈するための力を育成するための活動として、本単元では特定の場面を演じる活動を行う。自らが演じるために本文を細部まで読み込み理解する必要があること、他者の演技を見ることで自分の中にはない表現や心情の理解につながることを考える。演じる場面は2カ所設定する。これにより全体の流れの中で場面や描写とそのつながりに注目することの重要性に気づき、それを生かすことが単元内でできると考えた。1つ目の場面は、まず演じてみることを優先して、心情や演技に必要な情報（場面や描写）を整理し、実演させる。これをふまえて2つ目の場面は、演技の仕方と本文中の根拠についてワークシートに整理した上で実演することで、根拠を明らかにした上で物語について考えられるようになることをねらう。また他班と互いの演技を見合い、その違いを共有することで、他班の内容の解釈を参考に再度主人公の行動の理由を考えることへとつなげたい。これらの課題に取り組むことで、生徒自身が様々な視点に注目しながら本文を読み、根拠を明らかにしながら人物の心情について語れるようになることを考えた。

4 生徒の学びの履歴

生徒たちはこれまでも文学的文章の読解において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて描写を基に捉える学習を行ってきた。その中で心情を表す表現には、「嬉しい」「悲しい」といった直接的な表現だけでなく、登場人物の表情や行動の描写、情景描写によるものもあるということを学習した。様々な言葉の意味を捉え直しながら文章を理解しようと試みている一方、表面的な言葉への理解で留まり、登場人物の心情の理解を考える段階にまで至らない生徒もいる。あるいは登場人物の心情の変化というものと場面の展開というものを形式的に捉えすぎて、細かな心情変化を捉えきれないこともある。本単元ではそうした心情の読み取りの力をさらに養うこと、さらに作品全体を通して場面や描写に注視し、そのつながりを考えて内容を自分なりに捉えることができるようになってほしい。

〔資料〕 資質・能力育成のプロセス（5時間扱い）

次	時	評価規準 (想定する「Bと判断する状況」)	【 】内は評価方法 及び Cと判断する状況への手立て
1	1		
2	2 3	<p>思 「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈している。(○)</p> <p>態 進んで本文の場面や描写を捉えて本文の内容を解釈しようとしている。(○)</p>	<p>【ワークシートの記述の確認】 C：前後の場面を読み、「私」の心情がどのように変化しているのか、それがこの場面の演技にどのように反映できるかを考えるよう促す。</p> <p>【ワークシートの記述の確認】 C：実際に演じてみたり、自分が演じた動画を見たりして感じたことと、演じる前に考えていた本文の内容との相違点について考えるよう促す。</p>
3	4 5	<p>知 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(○◎)</p> <p>【Bと判断する状況の例】 本文に出てくる言葉や表現について、正しい意味で捉えて本文の解釈に役立てている。</p> <p>思 「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈している。(○◎)</p> <p>【Bと判断する状況の例】 本文の中から根拠となる部分を取り出して、どのような心情で登場人物が行動しているかを説明できている。</p> <p>態 進んで本文の場面や描写を捉えて本文の内容を解釈しようとし、学習課題に沿って2つの場面を演じようとしている。(○◎)</p> <p>【Bと判断する状況の例】 場面と場面のつながりを意識したり、細かな表現にも着目したりして本文を読もうとしている。他者との意見交換の中で得た解釈も、自分の解釈に生かそうとしている。</p>	<p>【ワークシートの記述の分析】 C：言葉の意味がわからないものに関しては国語辞典の活用を促し、本文ならではの表現については自分の体験などと重ね合わせて考えるよう促す。</p> <p>【ワークシートの記述の分析】 C：このときの主人公の心情はどういうものだと考えるのか、またそのように考えるのはなぜか、ということ本文の内容やこれまでの活動を踏まえて考えるよう促す。</p> <p>【単元の振り返りの記述】 C：単元のワークシートをもとに、自身がどのような部分に注目しているか、そこからどのように解釈したかを見直すよう促す。</p>

主たる学習活動	指導上の留意点	時
<ul style="list-style-type: none"> 学習プランで、本単元の見通しを持つ。 本単元の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【課題】 本文の最後,主人公が銀木屋をふくろから落としたのはなぜか,演技をすることを通して考えよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 本文を通読する。 「なぜ主人公は銀木屋とふくろから落としたのか」について,自分の考えをワークシートに記入する。 それぞれの場面を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習プランを示しながら,学習の流れと身に付けたい資質・能力を確認し,これまでの学習を生かして取り組むよう意識させる。 演じることが目的ではなく,読みを深める視点を得るために演じるという課題が設定されていることを確認する。 場面の整理については「どこで」「誰が」「何をしているか」といった簡易な形式で行う。 	1
<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の心情を読み取る際に注目するポイントについて確認する。 「私」が夏美に声をかけようとする場面 (P108L11~P109L11) を演じるために必要な情報をワークシートに書き込む。 班の中で役割分担を行い,実演する。 撮影した動画を,どのような意図でこのような演技になったのかの説明書きとともにTeamsに提出する。 自分の班や他の班の撮影した動画を見ながら,あらためて気づいたことや二回目の演技を考える際に気を付けたいポイントを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでに学習したことを踏まえながら,今回は作品全体にも注目することを伝える。 本文を台本形式にしたワークシートを用意し,ト書きのような形で情報を書き込んでいく。(心情,動作,配置,表情など) 四人班の中で①「私」②夏美③隣のクラスの子④撮影係(三人班のところはICT機器を固定して撮影する)の役割分担で進める。 役割を変えながら複数回演じられるようにする。 実際に演じてみて新たに分かったことや改善したい点などをワークシートに記入する。 	2 3
<ul style="list-style-type: none"> 本文最後,「私」がふくろから銀木屋を落とす場面 (P113L10~L12) を演じるために必要な情報をワークシートに整理する。 クラスを2つに分け,グループ内で実演を見せ合う。他の班の実演について①どのような行動や表情の表現から②どのような心情が見とれるかについて,2枚の付箋に分けて記入する。班ごとに付箋を貼り付けた模造紙を基に,演技・演出上の特徴の根拠が本文のどの部分の記述に基づくのかを話し合う。 これまでの学習を踏まえて「なぜ主人公は銀木屋とふくろから落としたのか」について,自分の考えをワークシートに記入する。 単元の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時で書いた読み取りのポイントを全体で共有し今回の演技においても本文全体から演じるための情報を見つけることを確認する。 ワークシートには,演技の根拠となる本文内の表現の引用(①)とそこから考える心情の解釈(②),およびそれに基づきどのような演技をするか(表情や動作の詳細)(③)をまとめる。 第1時で記述したものと比較しながら,改めて自分の解釈を整理するよう促す。 本文を解釈するためにどのように取り組んだか,学習を進める中で自分の解釈がどのように変わっていったのかを記述させる。 	4 5

6 学びの実現に向けた授業デザイン

【「学びに向かう力」が高まっている生徒の姿】

様々な描写に目を向けて、その文脈上の意味や場面と場面のつながりなどについて考え、他者の意見を聞き本文を繰り返し読みながら心情を解釈し、演じようとする姿。

【「学びに向かう力」を高めていくための指導と評価の工夫】

○観点別学習状況のあり方

1. 「知識・技能」の指導と評価

学的文章を読解するにあたっては言葉や表現の意味を適切に捉えそれらを解釈に役立てる必要がある。語句の辞書的な意味を理解することはもちろん、細かな表情の描写などについては生徒自身の体験と重ね合わせながら文脈上の意味を解釈させていく。演じ方について考える際には、心情の解釈と本文の根拠となる部分についてワークシートに記述させ、その記述から言葉や表現を適切な意味で捉えて解釈しているかについて、評価する。

2. 「思考・判断・表現」の指導と評価

場面を演じるためには、それに必要な情報を自ら探す必要がある。特定の場面に限らず本文全体のつながりに注目しながら読むことを意識付けていく。また、一つひとつの描写の意味を考えながら読むことの重要性も実感させたい。二つの場面を演じて考えたことを踏まえ、最後の「私」の行動に込められた心情を解釈させる。総括的に評価する際には、場面のつながりや描写に着目して解釈しているかに留意する。

3. 「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

学習プランを用いて生徒が見通しをもって学習に取り組めるようにする。また、自らが演じたり他のグループの演技を見たりすることで、行動や会話の意味を考え、試行錯誤しながら場面のつながりや描写に着目して本文を解釈することにつなげる。総括的に評価をする際は、本文を解釈するためにどのように取り組んだか、どのように解釈が変わったかについて振り返りに記述させる。その記述から生徒の粘り強い取組や学習の調整の様子を評価する。

○生徒が粘り強さを発揮し、自らの学習を調整するための場面や学習活動の工夫

「演じる」という活動を軸にして本文を読むことで、生徒自身が「自分が演じるためにはどんな情報が必要か」を考え、それまで見落としてきたような描写にも目を向けられると考えた。「音のないこま送りの映像を見ているように」「きまりが悪くてはじかれたように」といった表現にはどんな意味があるのか、前後の場面の登場人物同士の関わりはどのようなものなのかということを考えながら、場面にあった演じ方を自分で考えたり班員と相談したりすることで見つけていくため、様々な視点から本文を見てイメージを膨らませることができる。また、演じる場面を2つ設定することで、1つ目の場面での読み取りで学んだことを生かしながら2つ目の場面や本文全体の解釈に取り組むことができると考える。また、単元を通した問い「なぜ主人公は銀木犀とふくろから落としたのか」について、初読後と単元末に自分の考えを書くことで、学習の中でどのような変容があったのかを可視化できるようにしていく。

【本単元における、総合的な学習の時間（TOFY）とのつながり】（※「考えるための技法」はゴシック）

- ・文章を多面的・多角的に読み、思考していく力は、TOFYの探究の資料の読み取りや考察の際に生かすことができる。
- ・本文から根拠となる部分を引用し、自分の解釈を理由付けながら説明する力は、TOFYの探究のまとめの際に生かすことができる。